

| | | | | | | | |
|--|----------|-----|--|--------------|-----|----------------|--|
| 〔科目名〕 教養特殊講義Ⅰ | | | | 〔単位数〕 2単位 | | 〔科目区分〕 教養科目 | |
| 〔担当者〕 横手一彦 | | | 〔オフィス・アワー〕 時間:講義開始時に指示 場所:横手研究室(616号室) | | | 〔授業の方法〕 講義 | |
| 〔科目の概要〕 この講義は、近代日本文学の作品を個別に読み解くこと(解釈)を基本とする。文学に関連する事項や事柄を含め、ことばへの一般的な理解を深め(理論的な考察)、自分のことばで表現すること(実践的・言語化)を目的とする。このことは、作品内容を要約し、成立背景等を確認し、本文を読み込むということにとどまらない。ことばは、自分が考えるという、自分の思考を外在化させる形式である。 文学作品の読解は、非定型的な思考や感情の在り方を探究するという行為でもある。そこに、これまで自分が理解し、持ち得ていたこととは異なる、特異性や意外性があることに気付く。それは、外部要因に誘発されながら、内部的な在り方を深めることに通じる。これまでの「国語」教科の学習法と異なる接近を試みる。読書行為は、感受＝感じ取る、享受＝受け取って自分のものにする、鑑賞＝意味を理解し味わう、批評＝評価を述べる、評論＝意味を論じる、解釈＝意味を解き説明する、研究＝事実を調べ分析的に論理的に解説する、という各段階に区分けられる。作品は、読書行為によって成立し、読者の位置(現在性)を問い直すことに拡散する。新たな意味付けは、再集約される。そこに、作品を読み込むという面白さがある。 | | | | | | | |
| 〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕 ことばを学ぶ基礎は、自分の見方や考え方を捉え、自分と異なる見方や考え方を習得する契機を得て、自分の在り方に立ち返ることにある。 ことばは、見えることを表現し、見えないことも表現する。その狭間などを表現することで、それまでと異なる、時空間が創出される。それは現実の時空間にありながらも、部分的に、現実の時空間を超える(理想・幻想・虚妄……)。 学び、考える主体として、近代という自明性に疑問符を付し、全体像を構想し、人の在り方の変化を読み解く。ことばへの考察や分析の基本に立ち返ることで、他の科目との相互性が底辺部に形成される。 ことばによって、「理解すること」と「表現すること」を再把握する行為は、間接的に、生きるという姿や形に関わる。時には、直接的に関わる。〈学ぶ〉ことは自立的に生き続け、より真っ当に在り続ける方途である。その意味を、教場で考えたい。 | | | | | | | |
| 〔科目の到達目標〕 ことばを理解し、表現する、という人文科学領域の段階的实践から、特定の課題に対し、解決する方向性を模索する。講義後半では、映像や画像などの視覚媒体との関わりに拡大する。現実に向き合い、現実の課題を対処する能力の獲得(視覚媒体も含めた文字媒体による「理解」と「表現」)。 | | | | | | | |
| 〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕 | | | | | | | |
| 学部 | | | | 学科 | | | |
| DP1 | DP2 ○ | DP3 | DP4 | DP1 | DP2 | DP3 | |
| 〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 教場でプリントを配布する。平板な講義にならないように、また受講生の理解を深めるように講義内容を組み立てる。教材研究に基づく教材開発に努め、一端を講義に組み入れる。 | | | | | | | |

| | |
|---|--|
| 〔教科書〕 特に指定しない。 | |
| 〔指定図書〕 特に指定しない。 | |
| 〔参考書〕 講義の進行に伴い、適書を指示し、参考文献を紹介する。 | |
| 〔前提科目〕 なし。 | |
| 〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 近代の文学作品の諸相を多義的な視点から読解し、学生の意見を求める。後半には、視覚媒体の教材を含める。講義で小レポートを課す(クイズ)。また講義終了時、講義内容等に関するコメントを求める。学生の講義への参加を促し、それらの関わりを評価対象とする。 | |
| 〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 講義は、次のような項目立てに拠っている。I. はじめに II. 前回の学生コメントの紹介 III. 復習 IV. 学生の考察・作業 V. 作品紹介 VI. 分析と考察と論理化 VII. 理論的な思考方法 VIII. 要点確認 IX. 質問 X. コメント。事前に学習し、挙手や質問シートに書き込むなど、積極的な取り組みを望む。 | |
| 〔実務経歴〕 該当なし。 | |
| 授業スケジュール | |
| 第1回 | テーマ(何を学ぶか): 講義への導入 内 容: 自己紹介 受講要件の確認 受講態度など 講義の概略 出席カード 講義の導入(例. 言葉の基本形 作品評価の具体例) 宮野美乃里の作品 国語と母語 教科書・指定図書 なし 以下同じ |
| 第2回 | テーマ(何を学ぶか): 物語るという行為1 内 容: ことばの基本形 学校教育 自国の言語の規範 西行の作品 文学作品の分析例 文学の3要素 分析の3視点 教科書・指定図書 |
| 第3回 | テーマ(何を学ぶか): 物語るという行為2 内 容: 物語るという動物的な行為(?) 物語るという人間的な行為 神の視点から人間の視点への転換 時空間の整序 科学的思考方法の一例 解釈学的な経験 蕪村の作品 教科書・指定図書 |
| 第4回 | テーマ(何を学ぶか): 分析的思考と論理化1 内 容: 近代という考え方 三重の時間の束 身体的な関わり1 耳からの読書 目からの読書 例. 宮沢賢治の作品 教科書・指定図書 |
| 第5回 | テーマ(何を学ぶか): 分析的思考と論理化2 内 容: 思考方法(二分法と三角形と四角形. 補助線) 原典研究と批評史研究 存在と非在例. 三浦綾子の作品 教育的価値観の逆転 = 墨塗教科書 教室という空間 教科書・指定図書 |

| | |
|------|--|
| 第6回 | <p>テーマ(何を学ぶか): テーマ性の追求(人類史的な経験)——長崎(浦上)原爆 1</p> <p>内 容: 世界戦争と人間の在り方 過去完了形と現在進行形 身体的な関わり 2</p> <p>例. 林京子の作 A 当事者と非当事者 平和的という関係性</p> <p>教科書・指定図書</p> |
| 第7回 | <p>テーマ(何を学ぶか): テーマ性の追求(人類史的な経験)——長崎(浦上)原爆 2 石田雅子作品</p> <p>内 容: 家族の形 書誌的追求 被爆時の救援列車</p> <p>例. 林京子の作品 B 敗戦 敗戦期の文学 混沌に生きる</p> <p>教科書・指定図書</p> |
| 第8回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 地域史研究・文化研究の可能性</p> <p>内 容: 長崎県島原半島 口之津港 外国船 地域に生きる 地域外に生きる 子守唄 情の結晶 地域の庶民史 地域の文化 過去の生成物</p> <p>他例. 事例研究「島原の子守唄」</p> <p>教科書・指定図書</p> |
| 第9回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 思考過程を組み立てる・思考過程を文字化する</p> <p>内 容: 対話「本気」 夢と現実 学ぶということ ことばで語る ことばで表現する</p> <p>例. 咸宜園 適塾</p> <p>教科書・指定図書</p> |
| 第10回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 新しいことば 1——文字媒体・画像媒体・映像媒体の段階</p> <p>内 容: 絵画と文字 壁画 印刷 肖像画 写真技術の発達 上野彦馬</p> <p>教科書・指定図書</p> |
| 第11回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 新しいことば 2——画像媒体の進化 目の現実とレンズの「現実」</p> <p>内 容: 絵画による理解 画像による理解 映像による理解 米国企業コダック 19世紀から20世紀へ 映像の諸相 画像から映像へ 映画産業の成立</p> <p>教科書・指定図書</p> |
| 第12回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 新しいことば 3——映像の進化</p> <p>内 容: ヒトラーとチャップリン 電子技術 「理解」と「表現」</p> <p>教科書・指定図書</p> |
| 第13回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 新しいことば 4——文学と映像 A 地域に生きる</p> <p>内 容: 津軽三味線 仁太坊と金木と津軽</p> <p>教科書・指定図書</p> |
| 第14回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 新しいことば 5——文学と映像 B 「現実」が描く事実と人 批評する視点</p> <p>内 容: 津軽三味線 視覚化された作品世界 現実と「現実」</p> <p>教科書・指定図書</p> |
| 第15回 | <p>テーマ(何を学ぶか): まとめ</p> <p>内 容: ことば(話す・聞く・読む・書く) 文学作品 表現と形式 理解と表現 視覚資料と文字資料による現実と「現実」</p> <p>教科書・指定図書</p> |
| 試験 | <p>課題レポートの提出</p> |